

富山市立図書館

図書館だより

第50号
2012.2

レファレンス特集号

商用データベースを使った調べ案内 I

普段、調べものをする際に、「何を使って調べればよいか」、「短時間で効率よく調べたい」と感じることはないでしょうか。そのような時、蓄積された情報源の中からすばやく信頼性の高い情報を探すことのできるものに、データベースがあります。

富山市立図書館では、利用者用インターネット端末において無料で利用できるデータベースがあります。今回はその中のひとつ、D1-Law.com（第一法規法情報総合データベース）についてご紹介します。

1. 第一法規法情報総合データベースの概要

D1-Law.comは、第一法規が提供する有料のデータベースサービスです。ここでは、「法令データベース」、「判例データベース」、「文献データベース」等の、相互にリンクした複数の法情報データベースを使い、オンラインで法令や判例、それらに関する文献情報を総合的に調べることができます。

図書館で所蔵している活字資料の『現行日本法規』や『六法全書』でも法令を調べることはできますが、法令の正式名称をうる覚えだったり、条文の一部分のみを参照したい場合には、フリーワードで検索し、即座に必要な箇所を参照することができるデータベースが明らかに便利です。

また、活字資料の場合、刊行のタイミングによっては、最新の法令や改正に対応できない場合もあるので、更新頻度が高いオンラインデータベースの方

が、情報の新しさにおいて優れています。

ほかにもデータベース間のリンクにより、調べたい事項に関連する法令や判例、文献情報を自由に行き来することができたり、外部へのリンク機能を有していたりと、便利な機能が多数あります。

2. 利用のしかた

(1) 全般

D1-Law.comは有料データベースであり、富山市立図書館本館及びとやま駅南図書館の利用者用インターネット端末において利用することができます。現在、「現行法規-現行法検索」、「判例体系」、「法律判例文献情報」の3つのデータベースが利用可能です。

ただし同時アクセス数が限られているので、他館等で別の方が利用中の場合には、利用終了までしばらくお待ちいただくことになります。

D1-Law.comの左メニュー『オンラインマニュアル』の中には、各データベースの基本的な使い方が簡易的にまとめられた「クイックガイド」が用意されているので、案内のとおり画面を展開させていけば、初めての方でも簡単に利用することができます。さらに詳しい利用方法については、同ページの「ユーザーガイド」をご参照ください。

なお、画面のプリントアウトについては一部の館では対応できない場合がありますので、詳しくは窓口職員にお尋ねください。

(2) 法令データベース

①収録データの範囲

現在、法令データベースでは、平成 23 年 12 月 1 日までに官報で公布された未施行法令を含む約 10,000 件の現行法令（日本国憲法・条約・法律・政令・勅令・府令・省令・規則）を収録しています。

②基本的な使い方

上メニューの『簡易検索』もしくは『詳細検索』にて、「法令名」や「条文」からフリーワード検索を行うことができます。また、検索結果の法令から、その改正履歴や関連法令、関連文献を参照していくことができます。

例として【東日本大震災】をフリーワード検索すると、次のような法令・条文が一覧表示されました。

(画面①) その中から「東日本大震災復興基本法」を選択してみると、条文の全文が表示されます。(画面②) 今回は右上に「文献」アイコンが表示されているので、これを選択すると関連する文献を参照することができます。

『詳細検索』の場合は、「フリーワード」、「法令名」、「法分野」等、いろいろな条件を組み合わせて検索ができます。

たとえば「発令」の項目でプルダウンメニューから【平成】を選び、【23】を入力して検索すると、「平成 23 年に発令された法令」を一覧表示させることができます。

同様に、「フリーワード」に先ほどの【東日本大震災】を入力し、「法令区分」の項目でプルダウンメニューから【法律】を選び検索すると、「東日本大震災に関する法律」という条件で表示させることができます。

(3) 判例データベース

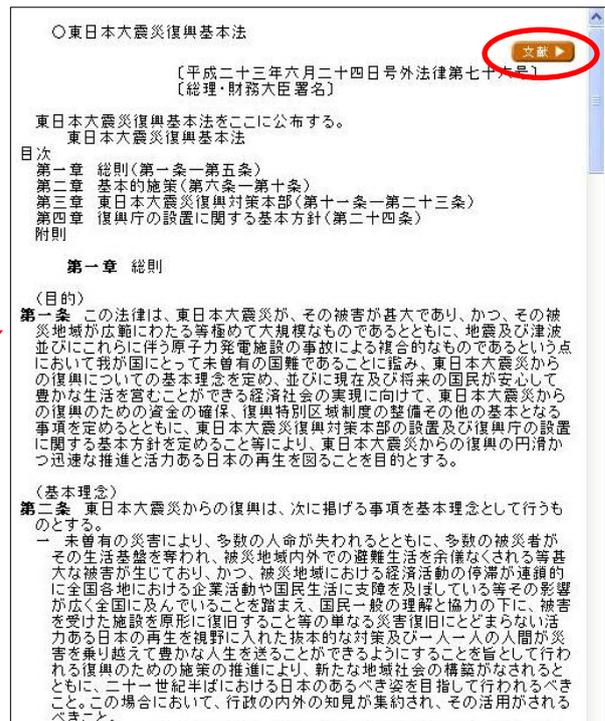
①収録データの範囲

判例データベースには「最高裁判所判例集」（民事・刑事）、「高等裁判所判例集」（民事・刑事）、「行政事件裁判例集」、「労働関係民事裁判例集」、「家庭裁判月報」、「知的財産権関係民事・行政裁判例集」、「判例時報」、「判例タイムズ」等が収録されていて、約 200,000 件の判例から検索を行うことができます。また、判例の概要だけではなく、論点や争点を的確に捉えた判例要旨や、「判例タイムズ」の解説情報があるため、争点理解の手助けとなります。

画面① 「東日本大震災」でフリーワード検索



画面② 画面①の検索結果一覧から、「東日本大震災復興基本法」を選択



画面①～③は第一法規 法情報総合データベース (https://www.d1-law.com/d1w2_portal/index.html) より転載。

画面③ 体系目次検索画面



「文献編」には 1982 年以降に刊行された法律関係図書、法律専門雑誌・研究紀要等約 1,300 誌、朝日・読売・毎日・日本経済新聞に掲載された法律関係署名論文・対談等の、文献情報が約 570,000 件収録されています。

「判例編」には 1982 年以降に刊行された判例情報誌 26 誌に掲載された判例情報が約 44,000 件収録されています。

「発行所情報」と「掲載誌情報」には、「文献編」に収録されている図書、雑誌、研究紀要、新聞について、雑誌・発行所の案内情報を収録しています。

②基本的な使い方

フリーワードによる検索のほか、「裁判年月日」、「裁判所」、「参照法条」、「事項」等を組み合わせた検索が可能です。

また、判例データベースでは通常の方法の他に「体系目次検索」というものがあり、判例要旨を分類整理した体系目次から、関連する要旨をまとめて閲覧することができます。他にも、論点別に判例を検索したい場合には、「体系項目ガイド」を利用した体系検索が便利です。

「体系目次検索」では、目次見出し(体系項目)の中から、【知的財産権法】→【著作権法】→【第31条(図書館などにおける複製)】のように選択し、目次を展開していくことにより、その項目に分類された、論点や争点を同じくする判例要旨をまとめて閲覧することができます。(画面③)

②基本的な使い方

フリーワードによる検索のほか、「事項索引」、「著者名」、「掲載誌」、「発行所」等による検索が可能です。また、上記項目について検索キーワードを支援する入力ガイド機能があります。

また、検索結果から「文献詳細」へ、「文献詳細」から「関連判例」や「関連文献」、「本文情報」へ、というように関連情報を次々に参照していくことが可能です。

さらに判例と評釈論文を相互に参照したり、同じ著者が執筆した他の文献を参照することができたりと、多様な参照機能があります。

ほかにも、国立情報学研究所の学術情報データベース『CiNii』と連携し、論文のデータや掲載誌の所蔵館情報等へのアクセスを容易に行うことができます。現在約 5,900 件の文献について、本文の閲覧が可能となっています。(本館 新保)

(4) 文献データベース

①収録データの範囲

文献データベースでは、次のような法律判例文献情報を調べることができます。

岩倉政治文庫の資料 其の十七



『無告の記』全3巻
新興出版社
1983年

先日、岩倉の代表作である長編小説「無告の記」の、第1部に当たる部分の自筆原稿82枚分が発見されました。当館の岩倉政治文庫には、第2部以降の原稿1,595枚が収蔵されていますが、冒頭にあたる第1部の原稿が欠けており、ご遺族にもその所在は分からない、とのことでした。今回発見された部分は、第1部の全てではありませんでしたが、また一つ、岩倉自らの手になる貴重な資料の存在が、明らかになったことは、嬉しい限りです。

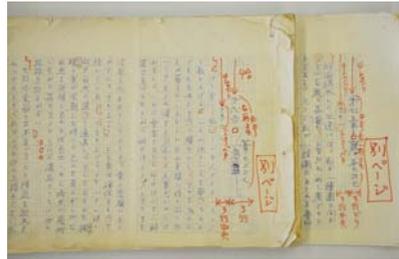
岩倉政治文庫に収蔵されている「無告の記」の原稿には、岩倉らしい雄渾な筆致の字が、青ペンで整然と罫目の中に書き込まれています。そして、念入りの推敲の跡からは、原稿に向かう時の真剣な姿勢が感じられます。

私たちが通常読む文学作品は、活字化されたものがほとんどですが、こうした作家自身の手で書かれた原稿を目にしてみると、作家の作品に込めた思いが、じかに伝わってくるようです。

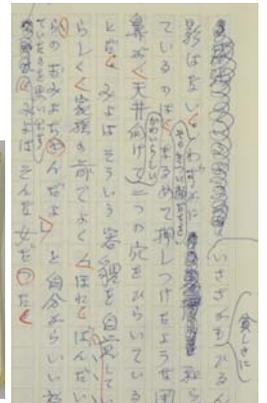
岩倉政治文庫には、「無告の記」の他にも、岩倉自筆の原稿が収蔵されており、その中には、これまで未発表であった小説作品の原稿も含まれています。

今回はこの未発表作品「天上界」をご紹介します（本館 舟山）

(右)『無告の記』上巻の第二部「青い彷徨」より「葦のごとく」にあたる部分。多くの推敲のあとが残っている。



『無告の記』自筆原稿（一部）



雑誌スポンサー制度を導入しています。

当館では、平成23年5月から、雑誌スポンサー制度を導入しています。この制度は、図書館で所蔵する雑誌に民間企業等の情報発信を組み込むことにより、スポンサーとなる企業等の協力を受けて、資料の安定した提供を図ることを目的としています。

この制度の仕組みは、当館の指定する雑誌の中から1誌または複数誌の購入費をスポンサーに負担していただき、購入した雑誌を雑誌コーナーに配架するというものです。提供雑誌の最新号カバー表面にスポンサー名を表示するとともに、裏面にはスポンサーの広告を表示しています。

現在はこの制度に3社が参加されています。詳しくは、

当館HPの「図書館からのお知らせ」の「過去のお知らせ」一覧より「雑誌スポンサーを募集します」をご覧ください。（本館 水野）

